

わが町の特産 「らいでんメロン」 にスポット！

世界に羽ばたく 共和の農業

らいでんメロンが一躍世界のひのき舞台に登場しました。

安倍首相が8月下旬に中東を訪問した際にカタル国のアブドゥラー首相に日本の果物として紹介され、午餐の場でカタル要人に振る舞われました。メロンを食したアルサダ・エネルギー工業相（写真）は非常に美味しいと評価。世界の「らいでんメロン」として名声を博しました。首相のお土産として白羽の矢が立った本町のメロンは『品質管理がしっかりしていることから安心・安全で美味しい日本を代表する旬の味』として東京市場から推薦を受け、農林水産省のお墨付きを踏まえ官邸が選定した



▲農水省写真提供

もので、重要な外交施策の一翼を担うとあってカタル要人からの高評価に、きょうわ農協関係者も一様に安堵し、今後は海外への販路拡大に意欲を燃やしていました。

栽培に着手してから半世紀近くが経つらいでんメロンは、生産者が幾多の困難を乗り越え北海道一の生産量を誇るまでに成長した本町を代表する特産品ですが、北海道内での販売は生産量の約2割で、8割は道外で販売されるなど、全国の市場関係者から高い評価を得ています。これは、生産者のためまぬ努力とメロン集出荷選果施設を早くから導入し、安定した高品質なメロンを消費者へ提供するなど、流通経路を明確にするトレーサビリティを導入したことによって、市場からの信頼を得ているからに他なりません。



らいでんメロン生産組合長 谷上保治

らいでんメロン生産組合長の谷上保治さんは「今から約半世紀前に、西瓜、メロンを栽培し一大産地を目指して導入してくれたこと、灌漑施設整備に取組み6月から10



▲「らいでん農コン」のワンショット

月まで安心して作付けすることが出来るようになったのも、諸氏先輩方の不屈の精神があればこそその偉業ですね」「これから若い後継者が育ってくれるのを楽しみにしています。」と目を細めて話してくれました。

こうした日本を代表するメロン産地を守るためにも、後継者の育成は重要な施策であることから、町ではその一環として農業後継者との交流を希望する女性を招き、メロン収穫などの農業体験を通して交流を深める「らいでん農コン」を実施。近年では多くのカッブルが誕生し、後継者も意欲を持って農作業に汗を流しています。

今月号から町中の話題をレポートしてお届けいたします。写真等を多く掲載し、親しまれるコーナーにして行きたいと考えていますので、話題提供をはじめ、ご意見等お寄せ下さい。



▲新技術について話す高橋指導員

農業開発センターでは、メロンや西瓜などの農産物の品種比較試験や資材を含む新技術の試験展示圃場の設置や食生活を豊かにする取組が成されています。指導員の高橋敏幸さんは、「メロンは水で採る、甘さは技術と愛情で育てるもの」とコツを教えてくださいました。今回の取材では、当たり前の取材材では、「水」の大切さと、新たな一歩を時間をかけて仲間で作上げる喜びに触れることが出来ました。



▲らいでんブランドを支える「共和ダム」